

八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗に係る評価

八幡市まち・ひと・しごと創生検討懇談会

会長 橋本 行史

平成30年11月7日に開催しました第1回八幡市まち・ひと・しごと創生検討懇談会において、八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の平成29年度実績等の効果検証を行い、下記のとおり懇談会評価としてまとめましたので、今後の検討事項としていただくようお願いします。

記

1 子どもが輝く未来の創生「やわた子ども未来プロジェクト」

- 子育て支援施設の配置等に地域的な偏りがあるのではないか。「子育てが楽しいと思う保護者の割合（基本目標）」の向上に向け、改善や配慮が求められる。
- 「スタディサポート事業」の市内全域への拡充に向け、所得制限の緩和などさらなる検討が求められる。

2 健康都市の創生「やわたスマートウェルネスシティプロジェクト」

- 「健康フェスタ参加者数（KPI）」は天候等条件により実績が左右されるが、市民の健康づくりに資することを目的に引き続き取り組まれない。但し、関連イベントとの連携不足や特に高齢者への周知不足が見られることから、今後さらなる周知・PRに努めることが課題である。
- 「産官学と地域連携によるコミュニティ運動教室（KPI）」の向上に向け、市内の自治会・老人会等による同様の取組の把握及び連携・支援を積極的に進める必要がある。
- 「平均寿命と健康寿命の差（KPI）」について、「健康寿命」の考え方を市内及び市民に浸透させるとともに、「健康寿命を延ばす」ことをより強く発信する必要がある。

3 文化と暮らしの創生「やわたチャレンジプロジェクト」について

- 「年間観光入込客数」「年間観光消費額」とともに達成となったが、数値の伸びが十分なものであったのか、近隣市町との比較等により検証する必要がある。また、「1人当たりの消費額」や「滞在時間」など質的な側面も分析し、「浜乃風」をはじめとする特産品の開発やPRと併せて市内での消費拡大を進めることが課題である。
- 未設定となっている「市民の幸福度（KPI）」について、「幸福度」の基準設定が難しいと思われるが、「地域のつながり」や「住みよさ」などが考えられる。
- 「Chazz in YAWATA」について、茶文化の発信は市として必要な取組と評価できるが、他のイベントとのバランスを考慮した事業内容・事業費の見直しを行う必要がある。
- 「男山地域再生事業」について、「だんだんテラス」をはじめ、今後も継続または一歩進んだ取組を期待する。これに関連し、連携の仕組みの検討も含め、今後も学生や大学との連携を推進し、新たなアイデアや地域活性化につなげていくことが求められる。
- 創業の推進に関し、担い手不足等により事業承継が進んでいない状況や創業者の7割が3年以内に廃業している実態を踏まえ、「事業承継」への支援を拡充する必要がある。
- 市役所前を通る府道八幡長尾線など市内幹線道路の愛称を公募しPRすることも、まちの魅力向上につながる効果的な取組と考えられる。

なお、今後の進め方など全般について、以下の2点の補足意見を付記します。

- 全分野において精力的に事業が進められていると評価できる。なお、対象者等へ働きかけ、その反応や行動を期待する性質を持つ取組については、進捗状況を鑑みるに短期間で効果を得ることが容易ではなく、継続的に取り組む中で動向を注視されたい。
- 基本目標やKPIについては、単に達成・非達成を評価するのみでなく、府内平均や近隣市町との比較を含め多角的な分析を行うとともに、わかりやすい表現に努められたい。